

令和7年度 第1回滋賀県環境学習等推進協議会 議事概要

日時：令和7年9月25日（木）10時～12時

場所：大津合同庁舎7－A会議室

出席：委員13名（13名／17名）

事務局（環境政策課、琵琶湖博物館環境学習センター、教委幼小中教育課）

オブザーバー（森林政策課、教委高校教育課）

■議事（1）会長および副会長の選出について

会長：委員の互選により、吉積委員に決定。

副会長：会長の指名により、中村委員に決定。

■議事（2）「第四次滋賀県環境学習推進計画」の進行管理（令和6年度）について

資料1に基づき、事務局（環境政策課）より説明

委員

- ・ 5ページの関連指標の評価について、全体的に参加人数が減っており、個々の案件としては高齢化など様々な原因があるのではないかとこのところだが、何かこれに対する対策がされているのか。
- ・ 9ページの生物多様性の保全に対する認知度について、令和6年度の数値が掲載されていないが、何か理由があるのか。
- ・ 8～9ページの参考指標については、県内での実績ではあるが、全国と比較して滋賀県の立ち位置としてどのぐらいなのか、もしデータがあれば教えてほしい。
- ・ 15ページ目について、（2）の表の中に「低炭素社会」とあるが、「脱炭素社会」の誤りではないか。

事務局（環境政策課）

- ・ 1つ目について、例えば、外来魚釣り上げ名人事業では参加者数の減少のため〇評価としているが、要因としては、釣果の減少や参加者の高齢化にともなう引退を挙げている。しかし、この事業の本来の目的は外来魚の低密度管理にあるため、釣果の減少はある意味で目的を達成できてきたからと捉えることができ、参加者数を目標とすることについては考え直す必要があるのではないかと考えているところ。そのほか、人数が減っている事業があるが、悪天候による大型イベントの中止などもあったと聞いている。
- ・ 2点目について、本資料作成時には令和5年度の数値が最新ということで所管課からデータを提供いただき掲載しているが、更新された数値があるかもしれないため、改め

て確認する（←令和5年度の数値が最新とのこと）。

- 3点目について、指標によって、全国と比較できる数値があるものとなないものがあると思われる。例えば、（１）は琵琶湖の水質であるため、全国との比較という話では適当なデータは無いのではないかと考える。（２）はCO2 ネットゼロにつながる取り組みを行っているかどうかというアンケート調査になるが、全国的に同様の調査をしているかどうか、もしあれば後日共有させていただく。（３）の生物多様性に関する認知度についてもアンケート調査になっており、こちらも確認をして全国的な指標があれば共有をさせていただく。（４）の循環型社会づくりについては、1人1日あたりごみ排出量が全国2番目に低い値となっており、全国平均と比較するとおよそ80～90グラム程度低い数値とのこと。（５）の多面的な機能を持つ森林づくりについては、除間伐を必要とする人工林に対する整備割合というところで、こちらも全国的な指標があれば、また共有させていただく。
- 4点目について、ご指摘のとおり修正させていただく。

会長

- 参加者数の減少について、高齢者が増加している点も含めて、今後の滋賀県環境学習推進計画を考える際に見直さないといけない指標かと思う。
- 全国との比較については、なかなか評価できないところもあるが、できるだけ比較できればと思う。琵琶湖の水質については、他の湖沼で参考になるところもあるかもしれないため、そういうところを踏まえて、琵琶湖の水質がどうなのか考えていければよい。

委員

- 令和6年度の「人材育成および活用」につながる事業では、16事業で目標を達成できたとのことだが、目標達成の判断は、各担当部局が設定した施策の目標に対してどうだったのかを判断されているという認識で正しいか。

事務局（環境政策課）

- 評価区分はA、B、Cの三段階あり、各事業担当課で設定した目標に対してどうだったのか、自己評価していただいているもの。

委員

- 「40歳代の環境保全行動実施率が低い」「ライフステージに応じた取組が重要」ということだが、40歳代は仕事や家庭などで忙しい世代だと想像するため、この年代に合わせた取組のイメージがわきづらい。具体的なイメージがあれば教えてほしい。

事務局（環境政策課）

- 子ども経由で親世代も環境学習をしていただくことを意識しながら、親子向けの施策に取り組んでいるところ。
- 興味がない方に対してどのように情報を届けるかが課題であり、テレビやラジオなどのメディアも活用しながら、発信している。

会長

- 環境保全行動実施率は、県政モニターだけではなく、その他の調査の結果も合わせての割合なのか。
- これまで当協議会でも、県政モニターに偏りがある以上、実際の環境保全行動実施率は反映されていないのではないかという議論があった。

事務局（環境政策課）

- 10 ページのグラフのとおり、色が濃い部分は県政モニターアンケートの結果のみである。県政モニターは大体 300 名弱の方に登録いただいております、挙手性であることから、県政に関心がある方や意識の高い方がどうしても多い印象はある。
- 斜線のグラフが県政世論調査の結果であり、県政モニターよりも母数が多く、より多様な方が登録されている。そのため、県政世論調査よりも県政モニターアンケートの方が、環境保全行動実施率は高めの値が出る可能性があるかと認識した上でこの値を評価しているところ。

会長

- 40 歳代の環境保全行動実施率が低いことについて、例えば、家事をされている方は食品ロスへの配慮などの様々な環境配慮行動をしているように思うが、アンケートで拾い切れていないことはないか。滋賀県の主婦層は石けん運動に代表されるように、普段の取組の中で環境に配慮した取組をされているのではないかと思う。このようなところを、今後うまく評価に繋げられるアンケートができないものか。
- 目標設定について、参加人数で評価をするのが一番簡単だと思うが、人口減少などもあり、今後は人数だけで評価するには難しいことも出てくるのではないかと思う。定員や人口に対するパーセンテージで評価するなど、今後見直していきたい。

委員

- 5 ページの各担当課で設定されている評価基準について、これは公表されているものなのか。また、評価基準はどこかで議論されているのか。

事務局（環境政策課）

- 基本的には公表されていないものと思うが、ものによっては審議会など結果が公表されるようなところで使用している目標をそのまま転用されているものもあるかと思う。

委員

- 非常に事業数が多いので、全ての評価基準を議論することは難しいと思うが、評価基準は非常に重要なものだと考えるため、例えば、事業一覧に評価基準も加えて記載していただけるとよいのではないか。
- 11 ページの県政モニターアンケートについて、図 5-1-2 で湖西地域 100%、湖東地域 67.9%ということのでかなり大きな開きがあるように見えるが、湖西地域の回答者が 7 名で、湖東地域は 28 名とのことであるため、大きく差が生じても仕方がないように感じた。年代や地域で分けた際に、かなり母数が少なくなってしまう、データとして参考にしづらいように感じた。275 名（回答者全員）で全体の動向を見るということであれば、多少言えることもあるかと思うが、年代や地域で分ける場合の母数としては、少し頼りない数字だと感じた。

事務局（環境政策課）

- 目標を一覧に載せられるように対応を進めていきたい。
- モニターアンケートについて、地域、年代、男女の比率は、県の人口割合に合うように 275 名を選定していると聞いているところ。しかし、経年で見ていると、10 代 20 代で少し環境保全行動実施率が低く、70 歳以上で少し高いなど、このようなところは言えるのではないかと考える。ご指摘の通り、湖西地域だと一人ひとりの回答がすごく大きく影響して数字に現れてしまうことはあろうかと思うため、十分注意してこの数字は見ていく必要があると考えている。

会長

- 各事業の評価基準は以前に一覧を見せていただいたような気がするが、全ての事業が数値で結果を計れるものではなかった記憶。協議会で 1 個 1 個の基準を議論できるものではないと考える。

事務局（環境政策課）

- ご指摘の通り、1 つ 1 つの事業において、目標に限らず、ギアモデルのどこに設定されていて、どのような工夫がされているのか、実績はどうかなど、一覧にした資料があるため、提示することは可能。

会長

- 環境保全行動実施率についても、最初は全体のパーセンテージしか示されていなかったが、どこにどのような課題があってどのようにすればいいのか、もう少し深い議論をするため、地域や属性で分けした値も示していただけるようになったはず。これだけで単純に評価はできないと思うが、このように分けてもらえると、より深く議論はできると思う。

■議事（３）琵琶湖博物館環境学習センターの事業（令和６年度）について 資料２に基づき、事務局（環境政策課）より説明

副会長

- （１）環境学習に関する相談対応等について、教材貸出件数が 53 件とあるが、貸出先はどこが多いか教えてほしい。

事務局（琵琶湖博物館環境学習センター）

- 夏休みは自由研究の関係で、個人の方に多く利用していただいている。そのほかにも、地域のイベント主催者への貸し出しや、数自体は少ないが学校教員が借りてくださる場合もある。

副会長

- 貸出件数が 73 件（R5）から 53 件（R6）に減少した理由は、個人の利用者が減ってきたためなのか。

事務局（琵琶湖博物館環境学習センター）

- 個人の減少のほかに、一昨年度は夏休みの自由研究で人気の「プランクトン」に関連したイベントを実施したが、昨年度開催した「鉱物」は自由研究では手を付けづらいようで、貸出数が少なくなったものと考えている。

委員

- 地元、平和堂今津店で「びわこのちから展」が 6 月に開催されたことを知らなかった。どのような広報をされたのか、また、来場者数がわかれば教えてほしい。

事務局（琵琶湖博物館環境学習センター）

- 広報の方法については、県の資料提供（記者向け）、県政 e しんぶんへの掲載、環境学習センターおよび琵琶湖博物館それぞれの SNS による発信。また、平和堂今津店は SNS

と館内で掲示をしてくださった。広報では、地域の方への事前連絡という点が少し弱かったと感じているところ。

- ・ 参加者数に関して、ワークショップの実施ではなく、買い物などの流れで見に来てくださる方々ばかりだったため、正確な数は数えることはできなかった。

会長

- ・ 色々な SNS などの媒体があり、たくさん情報がありすぎて、いかにその中でうまく興味のある方に届けるのかというところが逆に難しい。

委員

- ・ 以前、琵琶湖博物館に勤務しており、子供たちに環境学習を広めるためにはどうしたらいいのか研究していた。その際に考えたのが、教員研修の受け入れ。一人の先生の後ろには 40 人の子供がいますと考え、教員研修を活発にすれば環境学習が進むのではないかと考えて取り組んだ。
- ・ 参考資料 1 の事業一覧の中で、52 番・53 番は初任者研修の受け入れ、64 番は教員研修の受け入れとあり、琵琶湖博物館で研修を受けてくださっていることは、学校現場としては大変ありがたい。計画や事業報告の中で、もっと前面に教員研修の受け入れという文言があってもいいのではないかなと思う。

事務局（環境政策課）

- ・ 我々も学校の先生へのアプローチは大変重要なことだと思っており、本協議会の事務局に教育委員会に入らせていただいていることも、そのような思いから。
- ・ 計画の書きぶりについては、資料 3 の 13 ページで「各主体に期待される取組」ということで、「学校等」としてピックアップして記載させていただいている。この中の求められる活動の例で、「体験や研修、講座などを通して、環境学習に関する指導者としての教員の資質向上を図る」と記載させていただいており、これを踏まえた事業に取り組んでいる状況。今後とも教員の皆様に対するこのような施策を大切に進めていく。

事務局（琵琶湖博物館環境学習センター）

- ・ 琵琶湖博物館における教員研修と、環境学習センターにおける環境学習に関連する事業内容について、琵琶湖博物館の環境学習交流系の中には、学校連携という事業があり、主にこちらで教育委員会と毎年連携し、教員研修、初任者研修など実施しているところ。
- ・ 環境学習センターと教員研修の連携は、まだ不十分だと思っているため、今後、何らかの形で検討していきたい。

会長

- ・ 教員研修等の事業は、資料2の令和6年度の事業結果には含まれないのか。
- ・ せっかく取り組んでいるのであれば、記載してはいかがか。

事務局（琵琶湖博物館環境学習センター）

- ・ 琵琶湖博物館は協力しており、受け入れる。教育委員会から事業報告などは出されているかと思う。環境学習・交流係において、特に学校連携事業や地域連携事業等では、講義や博物館研修等の実施によって、環境学習につなげていこうと取り組んでいる。
- ・ 資料への反映については、今後具体的に考えていきたい。

会長

- ・ 琵琶湖博物館環境学習センターは、環境リーダーの育成を担う大変重要な事業に取り組んでおられると考えているため、今後検討いただきたい。

副会長

- ・ 学校現場で環境学習を推進する上で、環境学習センターに相談窓口があることは非常に心強い。相談件数の数とは、県内での環境教育が盛り上がりを示す数字だと考えており、これを踏まえてもっと期待を込めて言うと、200件とかではすごく少ないと感じる。200件の内訳について、小学校からなのか、個人からなのか、大体の内訳を教えてください。
- ・ 教員研修についても、このようなセンターがあることをもっと教員に言ってほしいとずっと思っていた。今、環境学習を総合学習の中で取り組もうとすると、地域と連携する必要があるなど、専門性が必要だったりする中で、やはり相談窓口が必要。その時に、環境学習センターはすごく教員が相談しやすい存在だと思う。もっと活用されてほしい。
- ・ 相談件数について、環境学習センターとしてはどのように思っているのか。増やす努力をされているのか。例えば、各市町の年度初めの校長会で広報をしてくださっているが、どこまで現場の先生に情報が下りているのか。
- ・ 「エコロシーガ」の教えてくれる人の登録者数をもっと伸びてほしい。これに関して、どのような人が相談に乗ってくれているのか。教えてくれる人とは毎年更新で面談などを行っているのか。登録しっぱなしになっているのか。相談件数や教えてくれる人の登録者数の充実など今後さらに図ってほしい。

事務局（琵琶湖博物館環境学習センター）

- ・ 相談件数について、今後増やしていけるように頑張っていきたい。内訳に関しては、個人や団体の方からの相談や、琵琶湖博物館にチラシを配架してほしいという話が多く、

環境学習センターに学校からの相談っていうのは、まだ少ない。

- 「エコロシーが」の認知度が低いということを改善するため、今年は色々と工夫をしている。既につながりのある学校や団体へ取材に赴き、その内容を「エコロシーが」や SNS で広報し、学校の方に知っていただき、学校のことも色んな方に知ってもらおうと取り組んでいる。このようなことを通じて、環境学習センターと学校との新たなつながりを作りつつある。
- 学校との連携に関しては、今後も引き続き、工夫をして一緒に何かできることを見つけていく必要があると考えている。
- 今後も広報等については、力を入れていきたい。
- 教えてくれる人に関して、基本的には毎年更新ではなく、一度登録したらそのままずっとつながっていくような形になるが、教えてくれる人の取材を通してコミュニケーションを取り、状況確認に取り組んでいる。また、令和元年あたりにコンタクトを取り、継続の意向確認を行って整理をしているところ。
- 学校連携については、博物館の中に担当部署があり、主にそちらで対応させていただいている。ただ、環境学習センターと学校現場、またそれ以外の関係機関との連携、仕組みについてはもっと力を入れて考える必要があると考えている。同時に、広報の仕組みについても、きちんと考えていく必要があると考えており、ターゲットをどこまで広げていくのか、それに対してどのような広報の仕方、連携の仕方があるのかを含めてさらに検討していく必要があると考えている。

会長

- 広報の難しさは先ほどもあったが、学校との連携は可能だと思う。学校では環境学習をしないといけない状況ではあるが、なかなか先生方の時間がない。たくさん相談したいという思いはあると思うが、忙しくて相談すらできないということがあるため、何か定期的に相談ができる場を作ったり、SNS ですぐに聞けるシステムをつくるとか、そういうものがあるといいなと思った次第。

委員

- 5 ページの夏休みの自由研究応援展について、参加人数などがわかれば教えてほしい。

事務局（琵琶湖博物館環境学習センター）

- 2日間開催し、ほぼ満員の 16 組 30 名ほどが来てくださった。事前予約のほか、当日に現地でお声がけをして当日参加と合わせて実施した。

委員

- 草津市でも7月に夏休みの自由研究の相談会を実施した。去年は参加者が多かったが、今年は減ってしまった。来年度からの事業の在り方を議論している状態。夏休みに自由研究に取り組む子どもが少なくなっているのではないかという感じがあり、今後も同様の事業をしていただけるのであれば、情報共有しながらうまく連携したい。

会長

- 親目線でいうと、開催時期として7月は少し早いのかなと感じた。夏休みに入って遊び気分自由研究や宿題に取り組む意識がなく、8月中旬くらいになるとかなり焦り始めるのではないかと。
- 親からすると有り難いイベントなので活用したい。無くなるのが惜しい。

委員

- 広報に関しては、県も苦労しているところ。
- 先ほど「エコロシーガ」のXを見てみた。フォロワー数は501だが、フォロー数は40しかない。公の機関であるため、相手のことをきちんと調べてフォローしないといけないう難しさはあると思うが、SNSは相互フォローが大事であるため、裾野を広げていくためには、こちら積極的にフォローしていくことも大事ではないかと思う。
- 先日、広報に関する庁内の会議があり、「県政に関して何で情報得ているか」という質問に対して、琵琶湖放送と回答する方が結構いらしかった。また、市町が発行する広報誌から情報を得られている方も結構いらしかった。ターゲットをどこに設定するのかによって、使う媒体は変わってくると思うが、広くみんなに知っていただく、親子に限らずおじいちゃんおばあちゃんも含めて知っていただくということであるならば、市町が配布する広報誌は結構有力な媒体かと思う。締め切りの問題や、市町のもの優先など、載せていただくのはしんどいかもしれないが、チャレンジしてみてもいいかなと思う。

事務局（琵琶湖博物館環境学習センター）

- 広報については、直接地域に赴いてのPRも含めて色々と実施しているところ。頑張っていきたい。

会長

- 最近、特に若い方はアテンションの時間が短く、SNSでも3秒の間に興味を持ってもらえないとすぐに次に行ってしまうと言われている状況。
- 普段から質問できる機会を整えとか、常日頃使えるような状態であれば、注意して情報を見てくれるのかなと思うため、本当に必要と思っている人たちに対して普

段から使ってもらえるような仕組みを整える方がいいのかなと思った。試行錯誤が必要かと思うため、検討していただきたい。

事務局（琵琶湖博物館環境学習センター）

- 相互フォローについては必要かと考えており、できる限りしていきたい。
- また、事業内容やターゲットなどに合わせて、市町や地域に PR していくことについても力を入れていきたい。

■議事（４）「第四次滋賀県環境学習推進計画」の総括について

事務局（環境政策課）より、次年度に当協議会で協議したい旨、説明
→異議なし

■議事（５）「第五次滋賀県環境学習推進計画」の策定状況について（報告）

資料３に基づき、事務局（環境政策課）より説明

委員

- 14 ページの自然共生サイトの認定について、生物多様性びわ湖ネットワークとして参画企業の６社記載されているが、現在は４社に減っているため、修正いただきたい。

事務局（環境政策課）

- 修正させていただく。

委員

- 参考資料２の県内の子どもに向けたアンケート調査に興味を持った。問２で自然や生き物を好きになったキッカケは何かという質問の中で、水族館・動物園・博物館が一番多いという結果に興味深く拝見した。
- 琵琶湖博物館が大好きで、自分の子ども、孫も連れて行っている。やはり子どもは一回ではなく回数行くことで色々なことに興味を持つと思う。このような結果が出ている裏には、私見ではあるが、滋賀県が取り組む「家族ふれあいサンデー」がかなり大きいと思っている。毎月第３日曜日は県内の家族連れは無料で入れる。生涯学習課が中心で取り組んでいる事業と認識しているが、広く考えると、家族ふれあいサンデーも環境学習の推進につながっている。この取組の文言もどこかにあれば嬉しい。

事務局（環境政策課）

- ・ 検討したい。

委員

- ・ 弊社の取組の紹介をさせていただくが、今年3月にオープンした弊社の施設では、近江の里山環境を取り戻して生物多様性を豊かにするという森づくりに取り組んでいる。
- ・ 私たちはこの施設をフィールドに、年間スケジュールを事前に組み、1年を通して里山環境を取り戻すための農的な環境整備に関するこのような活動をする事前に伝えした上で、年5回のイベントを企画している。
- ・ 10月に4回目の活動があるが、お客様の半数がリピーターという状況。単発の企画で打ち出すよりも、年間を通して何をしようとしているのか、どんな森づくりをしようとしているのか、事前にお伝えすることで、そこに共感してくださる方々が集まり、何度も訪れたいくなるような企画につながるような仕掛けをしている。
- ・ 広報的なところは私たちも試行錯誤であるが、環境や自然は単発ではなかなか語れないところがあるため、広くて長い視点をもってそのような発信をしていくことが結果としてすごく有効ではないかと思えてきたため、共有をさせていただく。

会長

- ・ 御社は色々な取組をされており、うちの大学からも何回か参加させていただいている。広報のところ、色々知見もあるかと思うため、また共有いただきたい。

■議事（6）その他

当日配布資料等に基づき、事務局、委員より情報提供

事務局（環境政策課）

- ・ 滋賀モックのリーフレットを配布させていただいた。8月24日に野洲市の近江富士花緑公園内の施設をリノベーションして作った施設。小学校以下の子どもや保護者を対象にしており、県産木材を使ったおもちゃや遊具があり、子どもたちが楽しく木と触れ合うことができるような施設になっている。おかげ様で結構人気が出ており、8月末までの夏休み期間と土日祝日は1日あたり平均365人の利用があり、好評いただいている。皆様の活動の中でも、ぜひ滋賀モックを活用していただきたい。

事務局（森林政策課）

- ・ 学校のご利用などの団体利用も受け付けているため、ご活用いただければありがたい。

委員

- 2つ資料を配布させていただいた。
- 2010 年頃から積水樹脂株式会社で取り組んでいる、生物多様性をキーワードとした保全活動を紹介しているため、ぜひご覧いただきたい。
- また、生物多様性びわ湖ネットワークの取組について、こちらは 2016 年から近隣企業と連携し、トンボをテーマとした保全活動に取り組んでいる。一時は 8 社ほど参画企業が増えたが、今は 4 社で取り組んでいる。この活動に共感いただける企業を募集しているため、ぜひこちらも見たい。

委員

- 「竹林整備一緒にしませんかと！」というチラシと、「たかしま秋のイベントスタンプラリー2025」の 2 枚のチラシを配らせていただいた。
- 竹林整備について、綾羽工業株式会社の敷地内にある安曇川の河辺林に、竹生島を追い出されたカワウが大きなコロニーを作っており、2、3 年前から地域でも問題になっている。このことについて、たかしま市民協働交流センターに相談があり、市民と一緒にできることはないだろうかということで、すぐに何か解決できるというものではないが、少しずつ、竹林の整備や、カワウがいっぱい巣を作っている大きな木までの道を作って木を少し減らすなど、そういったことを時間をかけてしていってはどうかという話になった。昨年度は、「河辺いきものの森」に教えを請い、最初はどんな生き物が生息しているのか植生調査してから整備をした方がよいということで、活動を始めている。植物や生き物の専門家の方にご協力いただいて調査した結果、守っていくべき希少な植物や昆虫なども見つかった。また、開花により枯れた竹林のところに、タイワンタケクマバチが生息していることが分かったため、そこから整備した方がよいというアドバイスもいただき、今年からはこのような活動に取り組むことになった。しかし、竹林を整備するだけでは楽しみがないため、冬の間は青い竹を使って竹かごを編んだり、春はたけのこを食べたり、子どもたちも遊べるような企画も入れながら、いろんな切り口で取り組んでいきたいと考えている。この河辺林が、いろんな方の楽しみや学びの場になるように目指して、10 年以上かかるだろうなと思いながら、少しずつ始めているところ。ご関心がある方はよかったですら覗きにきてほしい。
- たかしま秋のイベントスタンプラリーについて。たかしま市民協働交流センターでは、9 月から 11 月に各地で開催されるたくさんのイベントのチラシを寄せていただいており、毎年被ってる日があったりしたため、今年は 6 月ぐらいにみんなでちょっと相談をし、まとめて広報できる機会を持たないかということで、今年はスタンプラリーにさせていただきます。今年はなんとか被る日程もなく、みなさんでお互いのイベントで、お互いのチラシも配ろうかというような話になっている。良ければお越しいただきたい。

事務局（環境政策課）

- イベントの紹介を口頭でさせていただく。
- 10月13日、矢橋帰帆島の大はらっぱ広場にて、「自然とふれあう遊びと学びのたいけんフェア」というイベントを開催させていただく。基本的には親子をメインターゲットとしており、琵琶湖の漂流ガラスや木材、ヨシなどを使ったワークショップや、大津市にあるびわこベースの移動水族館などを楽しめる親子向けイベントを開催させていただく。このイベントは3年目となっており、昨年度は約1,500名に来場いただいた。今年度も、多くの親子連れの方々に楽しんでいただきたい。ご来場や広報のご協力をいただけるとありがたい。

事務局（琵琶湖博物館環境学習センター）

- 県内の環境に関する指導者や教員向けに、企画展示とコラボしたイベントを10月18日に行う。昨年度に引き続いての開催。参加者募集中。今年は、昔の河川の氾濫防止や治水のために使われた竹蛇籠のミニチュアを作るイベントを実施する。ご参加、また、広報へのご協力をいただけるとありがたい。刃物や薄くはいだ竹を使い、危ないため、今回はお子様は参加不可としており、大人のみとしている。

（以上）